受診は簡単 2ステップ!

STEP1 受診する医療機関を選ぶ

希望の条件（がん検診の種類、最寄り駅、土日・夜間の受診可否等）で
ウェブサイトから医療機関の検索ができます。
受診の際にぜひご利用ください。

※医療機関によっては予約が必要な場合があります。
ウェブサイト等をご確認ください。

横浜市がん検診サイト 検索

サイト画面イメージ

STEP2 医療機関で受診する

〈 持ち物 〉

- **本人確認書類**（マイナ保険証等）
- **クーポン券、減免確認書（区役所発行）等の資格確認書**
  （無料で受診可能な対象者のみ）
- **HPV検査受診券**
  （子宮頸がん検診のHPV検査を受診する方のみ）

お問合せ先

がん検診・検査、実施医療機関などについてはこちらへ

横浜市けんしん専用ダイヤル

TEL：045-664-2606
FAX：045-664-3851

【受付時間】
8時30分～17時15分
（日曜・祝日・年末年始を除く）

横浜市がん検診ウェブサイト

こちらへアクセス

横浜市がん検診 検索

2025

横浜市 がん検診ガイド

横浜市がん検診のご案内

がんは横浜市民の死亡原因第1位です。
しかし、がんは早期に発見し、適切な治療をすれば治癒が期待できる病気です。
横浜市では、現在加入されている健康保険などでは
受診機会のない横浜市民の方を対象に、がん検診を実施しています。
ぜひこの機会を利用して、定期的にがん検診を受けましょう。

発行：横浜市医療局 がん・疾病対策課　TEL：045-671-2453　FAX：045-664-3851

横浜市　令和７年度発行

横浜市がん検診の内容

参照ページ	検診種類	受診回数	対象者※1	費用	検査項目	実施場所
4ページ	大腸がん	1年度に1回	40歳以上	無料（令和7年度は、600円を無料としています）	問診、便潜血検査	大腸がん検診実施医療機関
5ページ	胃がん（内視鏡）	2年度に1回※2	50歳以上	2,500円※3	問診、胃内視鏡検査	胃がん検診実施医療機関
	胃がん（エックス線）				問診、胃部エックス線検査	
6ページ	肺がん	1年度に1回	40歳以上	680円	問診、胸部エックス線検査	肺がん検診実施医療機関
7ページ	子宮頸がん（細胞診検査）	2年度に1回	20～29歳、61歳以上（女性）	1,360円	問診、頸部細胞診検査	子宮頸がん検診実施医療機関
	子宮頸がん（HPV検査単独法）※4	5年に1回※5	30～60歳（女性）	2,000円	問診、HPV検査単独法	
9ページ	乳がん（①か②の選択制）	2年度に1回	40歳以上（女性）	①マンモグラフィ検査 680円	どちらか選択できます ①問診、マンモグラフィ検査	乳がん検診実施医療機関
				②マンモグラフィ検査、視触診 1,370円※6	②問診、マンモグラフィ検査、視触診	
11ページ	前立腺がん	1年度に1回	50歳以上（男性）	1,000円	問診、血液検査	前立腺がん検診実施医療機関

※1 令和8年4月1日までに対象年齢に達する方は、受診が可能です。
ただし、子宮頸がん検診（HPV検査単独法）は受診日時点の年齢になります。

※2 胃がん検診は同一年度に内視鏡検査とエックス線検査の両方を受診することはできません。また、連続する年度に内視鏡検査とエックス線検査を交互に受けることはできませんのでご注意ください。

※3 胃がん検診で内視鏡検査を希望される方は、受診当日に保険証を必ずお持ちください。内視鏡検査は検診の途中で確定診断のための病理検査を目的に粘膜片を採取する生検を行う可能性があります。この生検は保険診療となりますので、別途費用がかかります。

※4 受診する際は、必ず横浜市からお送りしている受診券が必要となります。
妊娠初期に健診券綴りを使用する場合は、年齢に関わらず細胞診検査になります。

※5 HPV検査が陰性である場合の受診間隔です。ただし、2回目の受診は30歳から5歳刻みの節目年齢（30、35、40、45、50、55、60歳）となります。また、HPV検査が陽性で、細胞診検査異常なしの場合は、翌年度に再度HPV検査の受診をご案内します。
なお、導入当初は次回受診を節目年齢で受けていただくため、間隔が5年に満たない場合があります。
受診時期には横浜市からご案内をお送りします。

※6 乳がん検診はマンモグラフィ検査の受診が必須、視触診は選択制です。視触診を別の医療機関で受ける場合は、マンモグラフィ検査を受けた後に視触診を受診することはできませんのでご注意ください。

★検診の結果、精密検査が必要となった場合や病気が発見された場合などは、医師の指示に従って受診をしてください。検査料、治療費は保険診療となり別途料金が必要となります。

★横浜市では、受診された方の検診結果などの情報を把握・分析し、がん対策の推進に役立てています。

費用が免除になる方

●検診を受けた後に費用の免除はできませんのでご注意ください。

1. **令和8年4月1日時点で70歳以上の人（昭和31年（1956年）4月1日以前にお生まれの方）**
   ➡ 年齢確認できるもの（健康保険証など）を検診時にご提示ください。
2. **後期高齢者医療制度が適用される人**
   ➡「後期高齢者医療被保険者証」を検診時にご提示ください。
3. **生活保護世帯の人**
   ➡「休日・夜間等診療依頼証」を検診時にご提示ください。
4. **中国残留邦人等支援給付制度が適用される人**
   ➡「本人確認証」を検診時にご提示ください。
5. **令和6年度市民税県民税が非課税世帯・均等割のみ課税世帯の人（世帯員全員の令和5年中の収入に基づきます。）**
   ➡ **検診前に手続きが必要です。**お住まいの区の区役所健康づくり係にお問い合わせください。

※令和7年度は、大腸がん検診は自己負担額無料のため、減免確認書の申請は必要ありません。

各区役所福祉保健課健康づくり係お問合せ先（市外局番は「045」です）

青葉区役所 健康づくり係	978-2438	瀬谷区役所 健康づくり係	367-5744
旭区役所 健康づくり係	954-6146	都筑区役所 健康づくり係	948-2350
泉区役所 健康づくり係	800-2445	鶴見区役所 健康づくり係	510-1832
磯子区役所 健康づくり係	750-2445	戸塚区役所 健康づくり係	866-8426
神奈川区役所 健康づくり係	411-7138	中区役所 健康づくり係	224-8332
金沢区役所 健康づくり係	788-7840	西区役所 健康づくり係	320-8439
港南区役所 健康づくり係	847-8438	保土ケ谷区役所 健康づくり係	334-6344
港北区役所 健康づくり係	540-2362	緑区役所 健康づくり係	930-2357
栄区役所 健康づくり係	894-6964	南区役所 健康づくり係	341-1185

がんは横浜市民の死亡原因の第1位です

がんを早期発見するためには、自覚症状がないうちから、がん検診を定期的に受けることが大切です。

がん検診のメリット・デメリット

がん検診には、早期のがんを見つけて早めに治療を行うことで、救命の効果があるという最大のメリットのほかにも、早期発見により治療の身体的負担、経済的負担が少なくすむメリットなどがあります。

異常なしという判定が100%正しいというわけではないこと、逆に検診で精密検査が必要となり、精密検査を受けた結果「がんではない」と判定される「偽陽性」、その後進行がんにならなかったりして、生命に影響を及ぼさないがんまで発見してしまう「過剰診断」、検査による出血や放射線の被ばくなどの偶発症など、デメリットもあります。このメリットとデメリットをよく知ったうえで検診を受けてください。

- **がん検診のメリット・デメリットに関すること**

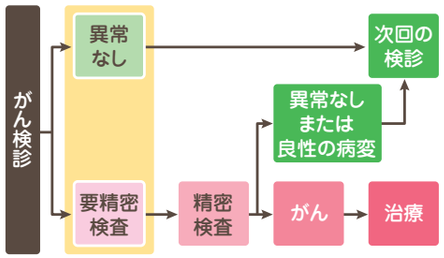
公益財団法人 日本対がん協会
https://www.jcancer.jp/about_cancer_and_checkup

国立がん研究センターがん情報サービス
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about/scr.html

がん検診の流れ

がん検診は、一見健康な人に対して、「がんがありそう（要精密検査）」、「がんがなさそう（異常なし）」ということを判定し、「ありそう」と判定された人には精密検査を受けるよう指導されます。

精密検査で「がん」が発見された場合には、治療を行います。精密検査や治療を受けない場合には、せっかくの早期発見・早期治療の機会を逃してしまいますので、ぜひ受診をしてください。



- **検診の結果、精密検査が必要となった場合や病気が発見された場合などの検査料、治療費は保険診療となり別途料金が必要となります。**

大腸がん

令和7年度は大腸がん検診が無料で受診できます

男女ともに、40歳以上は年に1回、大腸がん検診を受けましょう。

大腸がんにかかる率は、40歳頃から増加しはじめ、高齢になるほど高くなります。大腸がんは、がんによる死亡原因の中で女性第1位、男性第3位のがんです。

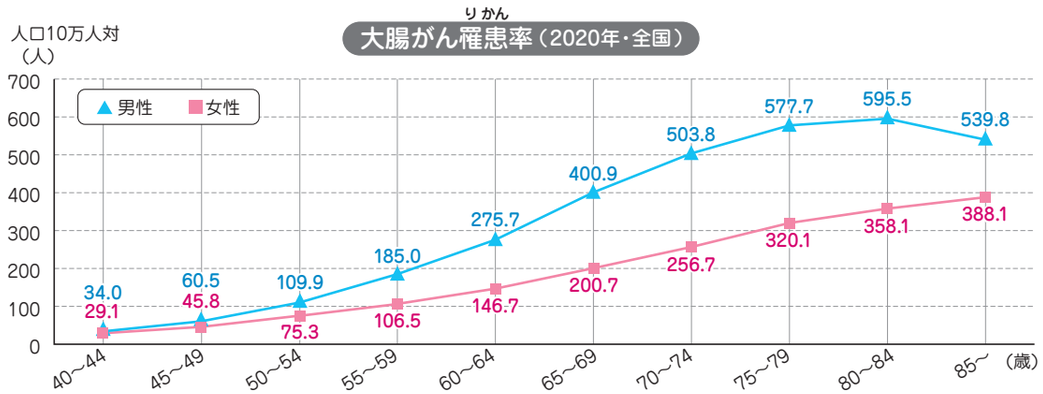
早期の大腸がんは、一般的には自覚症状はありませんので、無症状の時期に検診を定期的に受けて早期発見することが重要となります。

横浜市の大腸がん検診方法

問診、検査（便潜血検査２日法）

大腸にがんやポリープなどがあると、出血がみられることがあります。検便により、大腸内の出血の有無を調べます。精度を上げるため、2日分の便を検査します。（原則2日連続採取した検体を検査します）

陽性（要精密検査）と判定された人は、必ず精密検査を受けるようにしましょう。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉

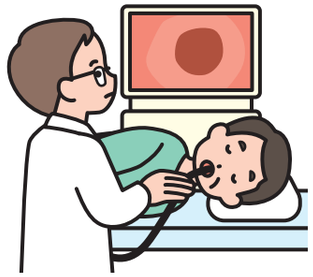
※上皮内がんを含む
※このグラフは1年間の罹患数をその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

こんな症状があったら、検診ではなく、すみやかに医療機関で「診察」を受けてください！

- 血便
- 便が細くなる
- 残便感
- 腹痛
- 下痢と便秘の繰り返し
- 貧血
- 体重減少　など

胃がん

**男女ともに、
50歳以上は2年に1回
胃がん検診を受けましょう。**



胃がんは50歳代から増加しはじめ、男性のほうが女性よりがんにかかる率や死亡率が高くなっています。

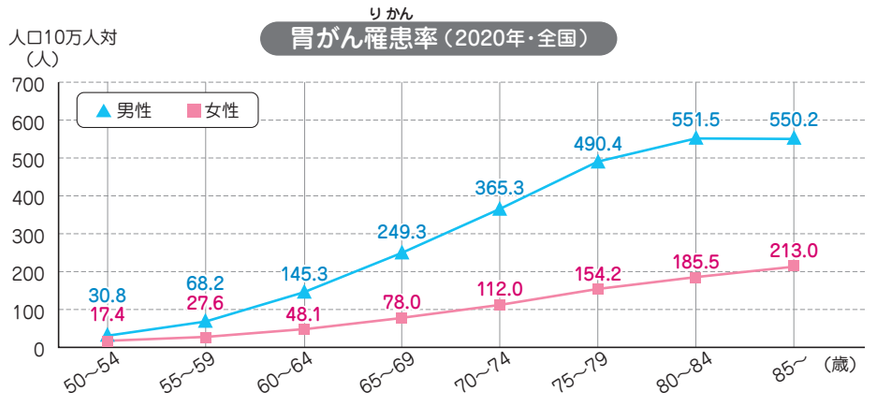
胃がんは、早い段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行しても無症状の場合があります。

早期の胃がんは、多くの方が検診によって発見されています。定期的に検診を受けることが、早期発見のために最も重要なことです。

横浜市の 胃がん 検診方法

問診、胃内視鏡検査または胃部エックス線検査

「胃内視鏡検査」は内視鏡を口または鼻から挿入し、胃を観察する検査です。「胃部エックス線検査」は、バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、胃をエックス線撮影する検査です。

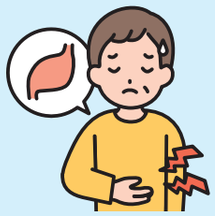


出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉

※このグラフは1年間の罹患数をその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

**こんな症状があったら、検診ではなく、
すみやかに医療機関で「診察」を受けてください！**

- 痛み
- 胃部不快感
- 胸焼け
- 吐き気
- 食欲不振



肺がん

**男女ともに、
40歳以上は年に1回、
肺がん検診を受けましょう。**

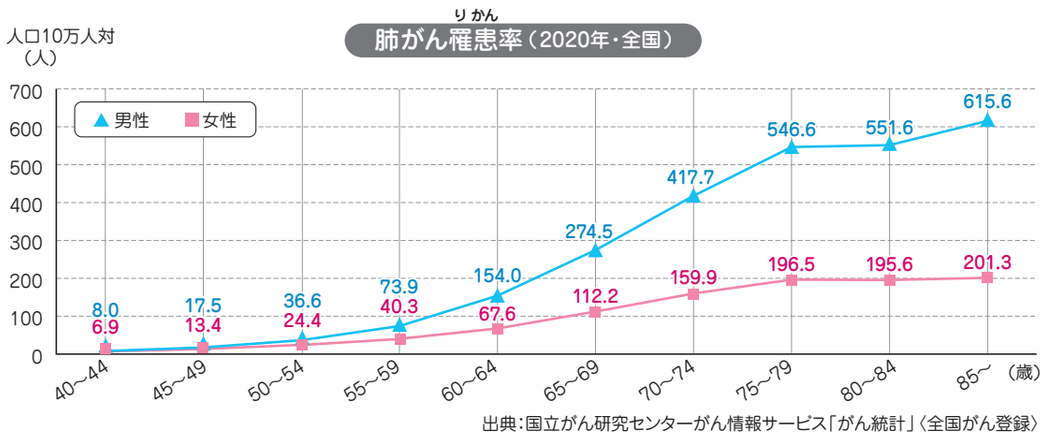
肺がんにかかる率と死亡率は、40歳代後半から増加し始め高齢になるほど高くなります。定期的に検診を受けて早期発見を心がけることが大切です。

タバコは肺がんの原因として大きなものです。受動喫煙も肺がんのリスクを高めるため、禁煙を心がけましょう。

横浜市の 肺がん 検診方法

問診、胸部エックス線検査

「胸部エックス線検査」は、肺全体を2方向からエックス線撮影し、肺がんの疑いの有無を確認する検査です。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉

※上皮内がんを含む
※このグラフは1年間の罹患数をその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

**こんな症状があったら、検診ではなく、
すみやかに医療機関で「診察」を受けてください！**

- なかなか治りにくい咳や胸痛
- 呼吸時のゼーゼー音
- 血痰
- 息切れ
- 声のかれ
- 顔や首のむくみ　など

子宮頸がん

20歳以上の女性は、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

子宮頸がんは、子宮の入口（頸部）に発生するがんです。子宮頸がんは、20歳代から増加しはじめ、30～40歳代が最もかかりやすい年代です。最近では、がんにかかる率、死亡率共に若年層で増加傾向にあります。

横浜市の子宮頸がん検診方法

20～29歳、61歳以上の方：問診、細胞診検査
30～60歳の方：問診、HPV検査単独法

※妊娠初期に健診券綴りを使用する場合は、年齢に関わらず、細胞診検査となります。

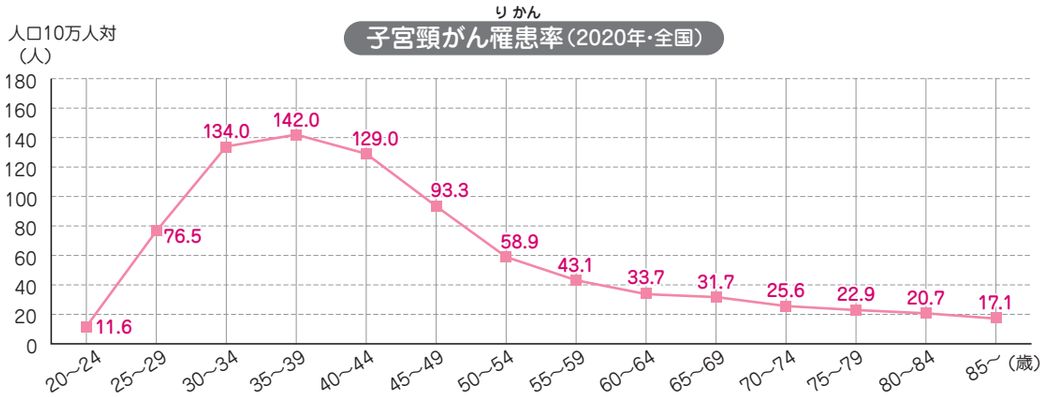
※性交経験のない方は、子宮頸がんの発生はほとんどないと考えられております。
検査によって、出血や痛みなどを伴うことがあります。検診内容をご確認の上、医療機関へご相談ください。

20歳～29歳、61歳以上の方

細胞診検査

子宮頸部（子宮の入り口）を、先にブラシのついた専用の器具でこすって細胞を取り、異常な細胞がないか顕微鏡で調べる検査です。

2年に1回定期的に受けましょう。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉

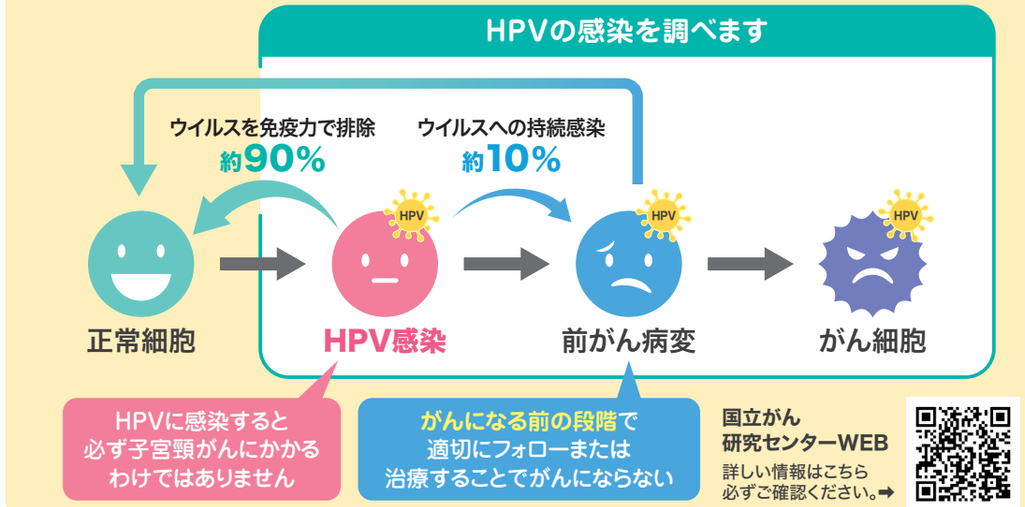
※上皮内がんを含む
※このグラフは1年間の罹患数をその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

30歳～60歳の方

HPV検査単独法

子宮頸部（子宮の入り口）を、先にブラシのついた専用の器具でこすって細胞を取り、子宮頸がんの原因ウイルスHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染しているかを調べます。

HPV感染と子宮頸がんの発生の流れ



HPV検査が陰性(－)の場合は「5年に1度」の検診です

HPV陰性(－) ➡ 次の検診は**5年後**です。

HPV陽性(＋) ➡ 細胞の状態を調べる検査を行います。（この検査のための再度の受診は不要）
検査結果に応じて、
1年後の再検査または**精密検査**を受けます。

※原則として、受診間隔は30歳から5歳刻みの節目年齢（30、35、40、45、50、55、60歳）となります。
※HPV検査を受診する際は、必ず横浜市からお送りしている受診券が必要となります。

生理不順、性感染症、避妊、妊娠などの相談は、お近くの婦人科をご受診ください。

女性の健康推進室 ヘルスケアラボ

このサイトでは、女性の健康に関するセルフチェックができます。自身の健康状態を把握し、必要に応じて医療機関に相談しましょう。

※厚生労働省科学研究費補助金を受けた研究班で運営しているサイトです。

乳がん

**40歳以上の女性は、
2年に1回、
乳がん検診を受けましょう。**

女性の乳がんにかかる率や死亡率は年々増加しています。日本人女性の9人に1人は乳がんにかかるといわれており、30歳代から増加し始め、40歳以上の女性では最もり患する人が多いがんです。

自覚症状がある場合は乳腺外来のある医療機関を受診しましょう。

横浜市の乳がん検診方法

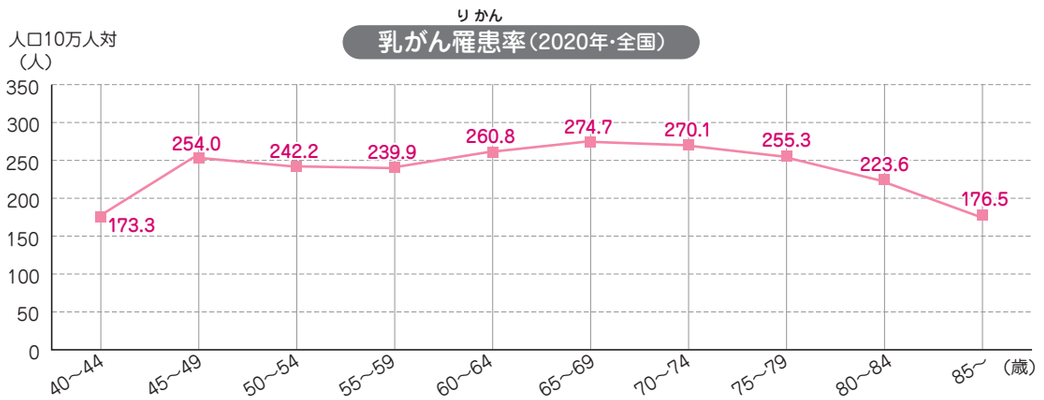
どちらか選択できます!!

問診、マンモグラフィ検査 または 問診、マンモグラフィ検査、視触診

「マンモグラフィ検査」は、乳房エックス線撮影のことです。この検査では、小さいしこりや石灰化を見つけることができます。

「視触診検査」は医師が乳房を視て、触って確認する検査です。マンモグラフィ検査の受診が必須、視触診は選択制です。

マンモグラフィでは見つけにくい乳がんもあります。気になる症状がある場合は、次の受診間隔を待たず、すぐに医療機関を受診してください。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉

※上皮内がんを含む
※このグラフは1年間の罹患数をその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

ブレスト・アウェアネスをご存じですか?

ブレスト・アウェアネスは、「乳房を意識する生活習慣」です。

自分の乳房の状態に日ごろから関心をもちましょう。乳房の変化を感じたら速やかに医師に相談するという、正しい受診行動を身に付けることが大切です。

乳房のチェック（40歳になる前からおすすめ）

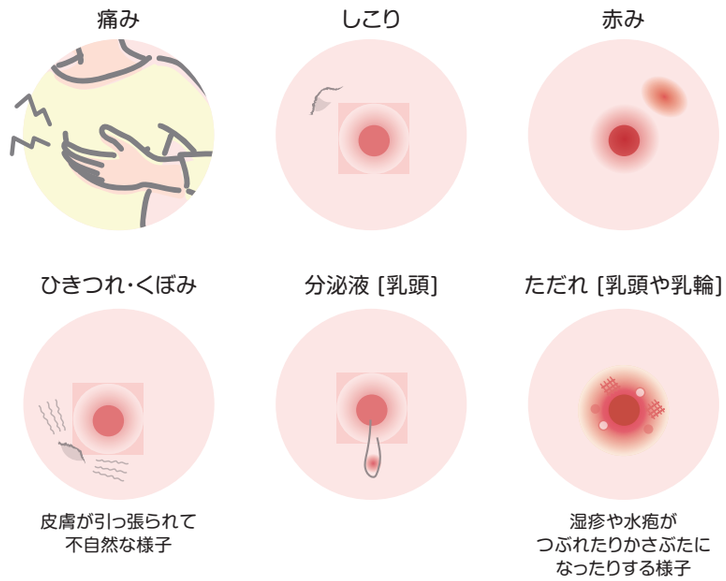
Step❶ 自分の乳房の状態を知る

しこりを探す必要はありません。お風呂に入る前、着替えの時など、普段の生活の中で見たり触ったりする習慣をつけましょう。

Step❷ 乳房の変化に気をつける

すぐに気が付くことができるよう覚えておきましょう。

こんな変化があったら注意!



Step❸ 変化に気づいたらすぐに医師に相談

上記のような変化に気がついたら、次の検診を待たずに、すぐに乳腺外科などの乳腺を専門とする医療機関を受診しましょう。受診の流れについて、詳しくはウェブサイト**「よこはま乳がん」**をご覧ください。

前立腺がん

50歳を過ぎたら、前立腺がん検診（PSA検査）を受けられます。

前立腺は男性だけにあり（精液の一部を作る臓器）、膀胱の下で直腸の前にあります。

前立腺がんにかかる率は、65歳以上で増加します。

他のがんと同じように、早期の前立腺がんに特有の症状はありません。

横浜市の前立腺がん検診（PSA検査）検診方法

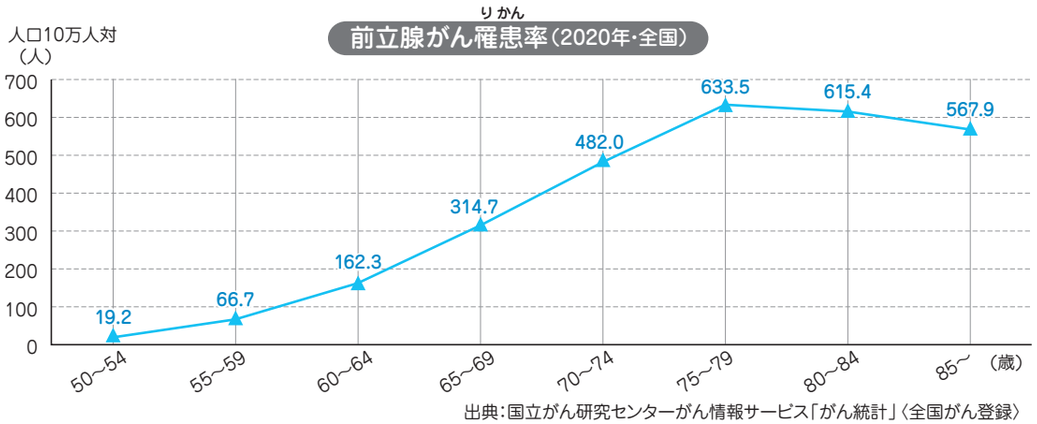
問診、採血

採血により前立腺特異抗原（PSA）とよばれる物質を測定する検査です。

● PSAとは…

PSAは前立腺がんになると血液中に増加するため、PSA値が高いほど前立腺がんが疑われます。

ただし、PSA値が高ければ、必ずがんであるというわけではありませんし、逆にPSA値が正常の場合でも前立腺がんが発生していないということにもなりません。あくまでも、前立腺がんを発見するきっかけとなる一つの指標です。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」〈全国がん登録〉

※このグラフは1年間の罹患数をその期間の人口で割った罹患率で、「人口10万人のうち何例罹患したか」を表しています。

こんな症状があったら、検診ではなく、すみやかに医療機関で「診察」を受けてください！

- 排尿困難（尿が出にくい）
- 頻尿（尿の回数が多い）
- 夜間多尿
- 尿意切迫感（尿意を感じるとトイレにいくまで排尿をがまんできない状態）
- 下腹部不快感　など

がん相談支援センター

がん相談支援センターにご相談ください。

がん患者やご家族、あるいは地域の方々からのがんに関するご相談をお受けする窓口で、**がん診療連携拠点病院や神奈川県がん診療連携指定病院**に設置されています。

がんのことやがんの治療について、今後の療養や生活についての心配事など、がんに関わるご質問や相談に、がんについて詳しい看護師や、生活全般の相談ができるソーシャルワーカーなどが対応しています。

その病院に通っていない方でも、どなたでも無料・匿名で利用でき、主に面談や電話で相談することができます。

「がん相談支援センター」に相談できることの例

診断や治療の状況に関わらず、どんなタイミングでも相談することができます。

- 治療のこと
- 希少がんのこと
- 療養生活、制度やサービス
- 今の気持ち、不安や心配など
- 治療と仕事の両立
- 家族とのかかわり
- 医療者とのかかわり
- AYA世代（15歳～30歳代）のがんのこと
- 妊よう性、性に関すること

◆相談内容の秘密は厳守いたします。
◆相談をすることにより不利益が生ずることはありません。
◆相談は無料です。

がん情報サービス

https://ganjoho.jp

国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービスのウェブサイトです。がんについて、がんとの向き合い方、診断・治療方法、緩和ケアについて、病院検索など、さまざまな情報を調べることができる「がん情報の入り口」です。

がん情報　検索

がん相談支援センター

市内の一覧はこちらから

https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/iryo/gan/taisaku/ganiryoukikan.html

その他の疾患について

歯周病

歯周病検診を受けましょう。

歯周病は、歯垢の中の歯周病菌が、歯肉に炎症をおこしたり、歯を支える顎の骨などを溶かしてしまう病気です。

初期では痛み等の自覚症状がないため、重症化するまで気づかず、歯を失う一番の原因になっています。

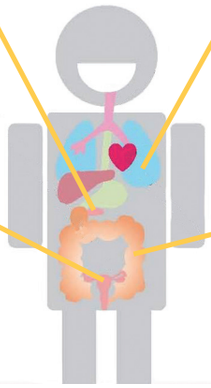
また、歯周病が全身の病気へ影響することが明らかになっています。

歯周病かどうかチェックしてみましょう!

- □ 歯ぐきがムズムズする
- □ 歯が浮いた感じがする
- □ 冷たいものがしみる
- □ 歯を磨くと出血する
- □ 朝起きたら口の中がネバネバする
- □ 口臭がする
- □ 歯と歯の間にものがはさまりやすい
- □ 歯がグラグラする
- □ タバコを吸っている
- □ 糖尿病である

2つ以上は要注意!
かかりつけ歯科医に相談しましょう。

歯周病は全身に関わる病気です!



糖尿病
糖尿病の人は、歯周病になりやすく、歯周病は糖尿病を悪化させます。

早　産
低体重児出産
妊娠中は、重度の歯周病により早産・低体重児出産の頻度が高くなるといわれています。

肺　炎
飲食物や唾液とともに歯周病菌が気管に入り込み、肺炎を起こすことがあります。

がん治療の妨げ
がん治療の際に口内炎の重症化や術後肺炎を起こすことがあります。

歯周病は、動脈硬化、心筋梗塞、肥満などと関係があることがわかってきています。

横浜市の歯周病検診方法

全ての歯を視診(※1)、特定の歯の歯周ポケット(※2)を測定

※1 レントゲン撮影は行いません　※2 歯周ポケット:歯と歯肉の間の溝

歯科医師が全ての歯を視診(むし歯等の異常がないかを診察)し、歯肉の状態を調べるために、特定の歯の歯周ポケットを測定します。

横浜市歯周病検診のご案内

対象者 満20・30・40・50・60・70歳※の横浜市民
※受診日時点の年齢です

受診費用 500円(70歳および市・県民税非課税世帯の方などは無料)

実施場所 横浜市歯周病検診実施医療機関

詳細はウェブをチェック! ➡ 横浜市歯周病検診 検索

〈健康福祉局 健康推進課〉

お問合せ
横浜市けんしん専用ダイヤル
TEL:045-664-2606
FAX:045-663-4469
8時30分～17時15分
(日・祝日・年末年始を除く)

肝炎ウイルス

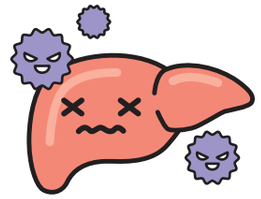
早期発見・早期治療のために、一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう。

国内で、B型・C型肝炎ウイルスに感染している人は、300～370万人と推定されており、実に日本人の約40人に1人が感染している事となります。またB型・C型肝炎ウイルスに感染していても症状がでない場合があり、治療が遅れる一因となっています。

肝炎ウイルスは、血液検査で感染しているかどうか調べることができます。今までに検査を受けたことのない人は、肝炎ウイルス検査を受けましょう。

もし感染がわかっても、適切な治療を受けることで肝硬変や肝がんと言った深刻な病気に進行するのを防ぐことができます。ウイルス性肝炎は治る病気になってきていますので、必ず専門の医療機関を受診しましょう。

治療については、神奈川県が医療費の助成を行っています。ご申請にあたっては各区役所健康づくり係(2ページ)にご申請ください。



横浜市肝炎ウイルス検査のご案内

対象者 過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない横浜市民

受診費用 無料

実施場所 横浜市肝炎ウイルス検査実施医療機関

〈健康福祉局 健康推進課〉

お問合せ
横浜市けんしん専用ダイヤル
※横浜市歯周病検診のご案内に記載(左ページ)

CKD(慢性腎臓病)

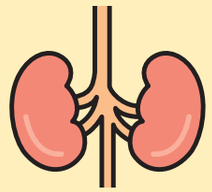
CKD(慢性腎臓病)は、腎臓の働きが少しずつ低下する病気です。

腎臓は、血液中の老廃物をろ過して、尿として排出する大切な臓器です。高血圧や糖尿病などの「生活習慣病」や他の病気により腎臓の働きが低下すると、人工透析が必要になるほか、脳卒中や心筋梗塞にかかるリスクが高くなります。近年は、成人の5人に1人がかかっているといわれるほど増加しています。腎臓の働きは一度大きく低下すると元に戻らず、CKDが進行するまで自覚症状が無いため、健診による早期発見が重要です。特定健診など生活習慣病チェックのための健診を受診することをおすすめします。

CKDの主な検査

❶腎障害を示す異常
尿・血液・画像検査(蛋白尿など)で明らかな異常がある。

❷腎機能(eGFRが60未満)
eGFRは、血液検査(血清クレアチニン)と年齢・性別から計算できます。腎機能が低下すると、数値が下がります。



❶と❷のいずれか、または両方の状態が3か月以上続くとCKDと診断される。